

第2章 試験研究の基本方針

1 基本目標

本県の試験研究においては、これまで、いちごをはじめとした全国に誇れるオリジナル品種や収量・品質を向上させる生産技術を開発するとともに、気候変動等による農業被害を最小限に抑える技術や病害虫・疾病対策に係る技術等の開発を継続的に行うなど、本県農業の技術的な基盤を支える役割を担ってきました。

こうした中、本県農業の更なる発展に向け策定した栃木県農業振興計画『とちぎ農業未来創生プラン』においては、「成長産業として持続的に発展する農業・栃木」を目標とし、6つの基本施策「人材の確保・育成」、「生産力の向上」、「販売・PR力の強化」、「消費拡大・安全対策の強化」、「農業生産環境の向上」、「農村の振興」を設定しました。さらに、これらを横断的かつ戦略的に進める3つの重点戦略を掲げ、人口減少に対応しつつ、農業の収益力を強化することにより、若者が本県に就農することを選び、稼げる農業者が増加するとともに多様な人材が地域で活躍できる「就農環境日本一」の実現を目指すこととしています。

本計画においては、以下の3つを基本目標に掲げ、生産性の飛躍的な向上や高付加価値化につながる新品种・新技術をはじめ、気候変動や環境負荷低減に対応する新たな技術の開発等を進めていきます。

(1) 農業者の所得向上

生産性の飛躍的な向上や省力化等につながる新品种・新技術を開発し、農業者の所得向上を目指します。

(2) 持続可能な農業・農村の実現

気候変動や環境負荷低減に対応する技術の開発を進め、環境と調和した持続可能な農業・農村の発展を目指します。

(3) 地域活力の向上

農村地域の特徴や地域資源を守り魅力を高める技術を開発し、地域活力の向上を目指します。

2 重点テーマ

基本目標の達成に向けて、効率的かつ戦略的な試験研究を推進するため、農業・畜産・水産の各分野における研究を横断的に展開する「重点テーマ」を設定します。

(1) 栃木のブランド力を高める農産物の開発

消費者の健康志向をはじめとする時代のニーズを捉え、新たな形質や特性等に着眼した栃木のブランド力を高めるオリジナル品種等の開発を進め、産地競争力の強化を促進します。

(2) 気候変動をはじめとする環境変化に適応した生産技術の開発

地球温暖化に伴う気候変動等による収量や品質への影響を抑制・軽減する技術や生分解性資材の活用等による環境負荷低減技術の開発により、環境と調和した持続性の高い農業の実現を促進します。

(3) 生産力の向上や省力化を実現する革新的な技術の開発

担い手の高齢化や労働力不足に対応するため、農業の可能性を広げる飛躍的な生産力の向上や省力化を実現する革新的な技術を開発し、若者層にも魅力的な次世代農業への進化を促進します。

(4) 農産物の新たな価値を創出する技術の開発

農業と食品産業との連携による農産物の新たな価値創出につながる技術をはじめ、輸出や加工・業務需要等、多様なニーズに対応する生産技術を開発し、本県農産物の付加価値向上を促進します。

(5) 地域の活力や魅力向上につながる技術の開発

地域の特性を生かした農産物の生産技術及び安全性の確保や衛生対策技術、地域の資源を守り魅力を高める技術の開発等により、農村地域の活力向上を促進します。

3 推進方策

本計画の実現に向け、以下の方策により試験研究を推進します。

(1) 生産現場との協働

生産現場の課題を的確に試験研究に反映するとともに、農業革新支援専門員や普及指導員をはじめ、農業者や関係機関・団体とが協働し、新品種・新技術の開発・普及を進め、迅速な課題解決を図ります。

特に、普及組織との連携を強化し、状況に応じて実用化に向けた現地実証試験に早期に取り組むことで、農業者の経営的視点（経済性）を踏まえた技術の開発と迅速な普及を図ります。



研究員による開発技術の説明

(2) 産学官連携及び異分野との交流

日々進化する研究手法を積極的に取り入れ、県民への貢献度の高い研究成果をより効率的に得ていくため、企業や大学等の他の研究機関との連携をさらに強化していきます。

また、AIやICT、遺伝子解析技術の開発等が急速に進展する中、農業分野以外の新たな知見や技術を応用することで、農業の革新的な技術開発が進む可能性が広がることから、異分野との交流機会の拡大を図ります。



産学官連携による取組の推進

(3) 成果の普及・情報発信力の強化

ホームページに加え、動画共有サービスやSNSなどの幅広い情報発信ツールを活用し、試験研究機関で開発した技術を県内外に積極的に発信していくとともに、研究成果の速やかな普及に向け、普及組織や農業大学校等との連携を強化し、就農を目指す若者や農業者向け研修機会の拡大や、最新の研究成果を体系的に学べる教育環境の充実に努めていきます。

また、セミナーや公開デー等を通じて、県民とのコミュニケーションを深めることで、試験研究に対する県民の理解促進を図るとともに、より実用性の高い研究開発につなげていきます。



就農を目指す学生に対する和牛審査講習会の開催

(4) 知的財産の保護と活用

各試験研究機関で開発したオリジナル品種や技術は、県の貴重な財産であり、国際化や産地間競争に対応する上で重要性が高いことから、「栃木県農産物知的財産戦略」を踏まえ、速やかな権利化と適切な保護・活用を図ります。

また、県が保有している知的財産をより有効に活用し、財源を確保するなど、試験研究の活性化を図るため、県内企業とのマッチングや他県、企業等への利用権設定に向けたPRを積極的に進めていきます。



オリジナルの酒米を活用した商品開発